

SET LIST

01. ドライブ GO !
02. 光の魔人
03. 千円ボウズ
04. 大空がある
05. もぐらとボンゴ
06. ここにある
07. 爆音サイレンサー
08. イエー！ ロックンロール！！
09. 冬のくわがた
10. ナイフの時代
11. ごくつぶし
12. 縄文BABY
13. 空き家
14. メタリックサマー
15. 妖怪山エレキ
16. 暴動チャイル(BO CHILE)
17. エルビス(仮)
18. 生きる
19. 紙飛行機
20. タリホー
21. エイトビート
22. ギリギリガガンガン
23. ナンバーワン野郎！



LIVE REPORT

3/19 sat. 広島JMSアステールプラザ大ホール

ザ・クロマニヨンズ

全てを削ぎ落とした最高の舞台。
これこそが裸のロックンロール！

少し肌寒いからだろうか？ 皮ジャンパー姿も目立つ広島JMSアステールプラザ。集いしロックンローラー達は、マスク姿でも胸のドキドキが手に取るようにわかる。場内に足を踏み入れると、広い舞台には一切の飾り気が排除されていた。黒いマットの上に、楽器とアンプ、モニタースピーカーだけ。ステージ後方には会場の資材や照明機材などが出しっぱなし状態。そのシンプルすぎる空間に、否が応でも期待が膨らんでいく。

入場はライトアップされた後方の扉から。ツアーTシャツの4人が姿を見せると、観客に手を上げて応える。熱を体に寄せ、爆発寸前の甲本ヒロト(Vo)。アルバム『SIX KICKS ROCK & ROLL』のジャケットを描いたバックドロップがゆっくり



と下降してくる。暗間の中に稲妻と6つの星が浮かび上がった。「オーライ、ロックンロール！」——ヒロトの合図で、弾けるように『ドライブGO！』からスタート。真島“マーシー”昌利(G)の鋭いリフ、爆音で鼓膜を震わせる小林勝(B)と桐田勝治(Dr)の重厚なリズム隊、ヒロトがハンドマイクに持ち替え、『光の魔人』で加速度を高めると、青い照明の中、軽やかにビートを刻んだ『大空がある』まで一気に走り抜ける。全身を貫く高揚感そのままに、高く拳を振り上げる客席。

「よく来てくれたな〜！」。ヒロトの短い挨拶を受けて、まるでライブが終わったかのように、鳴り止まない拍手の嵐。少し照れくさそうに「こんなに集まってくれて…あとは楽しんでくれよ〜」と、口数も少なく再び演奏へ。ヒロトが腰をかめユーモラスなアクションを見せた『もぐらとボンゴ』から、マーシーの鋭いギターが冴え渡った『ここにある』と、一瞬一秒だって目と耳が離せない。恐ろしくダイナミックで圧倒的にピュアなバンドサウンド。「ものすごくいい感じなので、このまま続けさせてください」と、熱い拍手を受けての『冬のくわがた』は、緩やかなレゲエビートが心地よい。激しいストロボからの『ごくつぶし』は、ギターとハーブのバトルに鳥肌が立つ。その音に、一切の迷いはない。

2021年からのザ・クロマニヨンズは、6カ月連続でシングルをリリース。そのすべての楽曲をまとめた15枚目のアルバム『SIX KICKS ROCK & ROLL』を今年1月に発表した。あえてレコードに重心を置き、配信を行わないスタイル。それは、決して懐古主義なんかではなく、一番ロックンロールな形を選んだ結果なのだろう。その最終形態がライブだ。「全12曲のアルバムを全部続けて演ってきて、今11曲。引き算のできる人ならわかると思うけど…あと1曲です」と笑い、『縄

文BABY』と叫ぶヒロト。スイートなメロディーが、客席を優しく包み込んだ。ここでアルバムパートは終了。後幕に手を振りサヨナラをする。

後半は、まずアルバム『MUD SHAKES』から3曲を披露。『妖怪山エレキ』では、「ヤッホー」のコーラスに心とクラップで応える。“大声を出さない”というコロナ禍でのライブルールのもどかしさは、「このツアーで勉強になったのは…拍手は“伝わる”ってことです」というヒロトの言葉で救われる。ラストに向けて『暴動チャイル(BO CHILE)』から王道シングルの連打へ。凄まじい破壊力で『タリホー』までぶちかまし本編終了…と思いきや、そのままステージに残り、タオルなどのグッズを掲げながら黙って立ち尽くす4人。贈られる拍手を受け止めながら長い沈黙の後、「盛大なアンコール、ありがとうございます」とヒロトがいたずらっ子の笑顔を見せる。舞台に残ったままのアンコール。ここまで演出を削ぎ落としたライブは見たことがない。マーシーはステージ前ギリギリで煽りまくり、ヒロトは駄々っ子のように最前で転げ回る。剥き出しの感情が巻き起こすロックンロールなエネルギーに、全てを解放するオーディエンス。『ナンバーワン野郎！』を鳴らし終わり、4人が扉の向こうに消える瞬間まで、稲妻に打たれ続けた90分1本勝負。ザ・クロマニヨンズは、こんな時代に音楽で“裸”になることの素晴らしさを教えてくれた。もう、重い皮ジャンパーは脱いで、どこまでも自由になろう。最高のロックンロールと共に！

15th Album

『SIX KICKS ROCK & ROLL』
out now!!

